

要覽



令和8年度

宮城県畜産試験場



基幹種雄牛「華福久」号



Miyagi Prefectural Livestock Experiment Station
〒989-6445 宮城県大崎市岩出山南沢字樋渡1
9896445 Hiwatasi1 Iwadeyamaminamizawa Osakisi Miyagiken

TEL:0229-72-3101 FAX:0229-72-2326

Email: tikusans@pref.miyagi.lg.jp

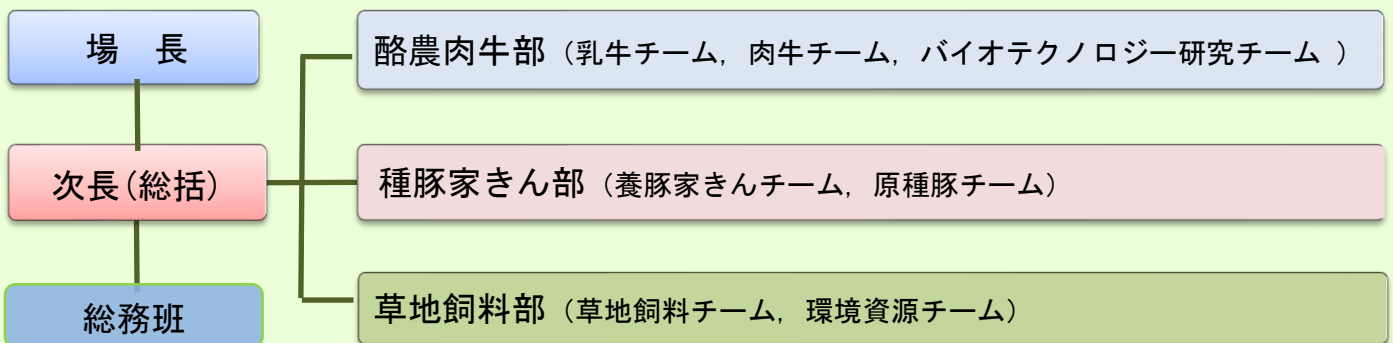
URL: <http://www.pref.miyagi.jp/soshiki/tikusans/>

I 沿革

大正10年(1921年)	刈田郡白石町大字郡山(現白石市)に宮城県種畜場創設
昭和24年(1949年)	玉造郡西大崎村の旧農林省宮城種畜牧場を譲受。白石町より種畜場を移転
昭和48年(1973年)	畜産試験場に改組
昭和49年(1974年)	種雄牛「茂重波」を兵庫県より購入、同年精液配布(昭和63年死去)
昭和52年(1977年)	現在の本館を建設。宮城県農業実践大学校(現宮城県農業大学校)を併設
昭和59年(1984年)	昭和58年受精卵移植技術に着手、本県最初の受精卵移植による子牛が誕生
平成5年(1933年)	「茂勝」が基幹種雄牛に選定(平成16年死去)
平成14年(2002年)	デュロック種「しもふりレッド」の系統豚認定
平成19年(2007年)	「茂洋」が基幹種雄牛に選定(令和元年死去)
平成21年(2009年)	ランドレース種「ミヤギノL2」の系統豚認定
平成30年(2018年)	新種雄牛舎建て替え

II 組織機構図

令和8年4月1日現在



職員数: 研究職21名, 行政職4名, 現業職14名の正職員39名 会計年度任用職員27名 合計66名

III 試験研究等の概要

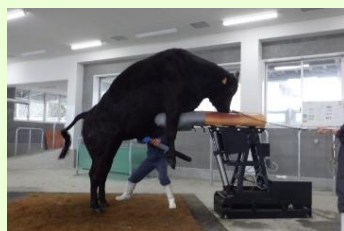
酪農肉牛部



ICT機器を活用した飼養管理の検証

乳牛チーム

- ・乳用牛のベストパフォーマンス発揮に向けた飼養管理手法の確立
 - －ICT機器等を活用した飼養管理の検証
 - －抗生剤に依存しない飼養管理手法の改善による総合的疾病预防法の確立
- ・乳用牛群検定の普及



種雄牛からの精液採取

肉牛チーム

- ・肉用種雄牛の検定
- ・DNA多型マーカーと家畜の生産形質及び遺伝的疾患等との関連に関する研究(牛)
- ・効率的な黒毛和種種雄牛造成手法とその活用に関する研究
- ・デジタル技術による仙台牛のプレミアムプロジェクト
- ・優良種雄牛の凍結精液配布



生体内卵子吸引による卵子採取

バイオテクノロジー研究チーム

- ・牛の受精卵移植技術の実証に関する研究
- ・効率的な黒毛和種種雄牛造成手法とその活用に関する研究
- ・優良受精卵の配布

種豚家きん部



種雄豚からの精液採取



種豚候補豚の選抜

養豚家きんチーム

- ・優良種豚供給体制の確立
- ・開放型育種によるデュロック種造成試験
- ・系統豚「しもふりレッド」の液状精液、種豚候補豚配布

原種豚チーム

- ・優良種豚供給体制の確立
- ・DNA多型マーカーと家畜の生産形質及び遺伝的疾患等との関連に関する研究(豚)
- ・薬剤削減のための豚腸-肺免疫連関実証事業
- ・ランドレース種「ミヤギノL2」の種豚候補豚配布

草地飼料部



イタリアンライグラス(左)とスーダングラス(右)による2毛作体系の実証試験



成分を調整したペレット堆肥の試作

草地飼料チーム

- ・飼料作物、牧草適応品種の選定
- ・気候リスク対応飼料生産技術実証事業
- ・温暖化に対応する飼料作物栽培緊急実証事業

環境資源チーム

- ・特殊肥料等入りの指定混合肥料のほ場での効果検討

IV 研究施設等概要



本館(事務室・実験室等)

土地:117ha (牧草地:64ha)

建物:62棟 17,781㎡ 本館, 研究施設, 畜舎など

家畜:乳用牛63頭, 肉用牛54頭, 豚242頭

(令和8年2月現在)

V 連携・普及活動



○農業大学校との連携

畜産学部の子生に実習や講義・プロジェクト指導を通じて農業担い手の育成を支援

○研修会等の開催

養豚研究会と連携した研究集会や畜産関係職員・農業者等に研修会を開催

○家畜人工授精師講習会

家畜人工授精師の資格試験希望者に繁殖理論や人工授精実技等を指導

VI 地勢

位置：北緯38度38分55秒
東経140度52分48秒
(位置は大崎市岩出山総合支所)
地形：標高62m
河岸台地(表層は黒ボク土)
年間平均気温：11.5℃
年間降水量：1,174mm(大崎市古川)

